

熊本県を中心とした一連の地震で被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。また、被災者の救済と被災地の復興支援のために「尽力されている方々に深く敬意を表します。皆様の安全と一日も早い復興をお祈りいたします。」

食卓彩菜

マーマーズの

この度は、「毎日のお惣菜」頒布会をご利用いただきまして誠にありがとうございます。

お客さま方の食卓に彩を添える季節の旬のお惣菜を、ひと品ひと品、まごころを込めてお届けいたしますので、味付けやメニュー、サービス等についてお気づきの点がございましたら、同封のはがきなどで、何なりとご意見を賜りたく、宜しくお願ひ申し上げます。「ペッコおやすめんせ」とイベント的な記事「花巻だより」こちらにもどうぞ。



おやすめんせ

「母ちゃんハウスだあすこ」

「ペッコ」は「ちよつと、又は小さい」、「おやすめんせ」は「お休み下さい、又は休んでいって（寄って）いって、おやすみなさい」と言う意味の花巻弁です。題字は「ちよつと、ここで休んでいって〜」という意味です。

今年3月にリニューアルオープンしました産地直売店の

「だあすこ」をご紹介します。

「母ちゃんハウス だあすこ」

は「安心・安全・新鮮」な地元

花巻産の農産物や加工品をお

客様にお届けしたいという思

いからJA女性部が立ち上げ、

中心となって運営されている

産直店です。集客日本一を争う

ほどの産直店で、地元の方は元

より視察や観光として大型バ

スで訪れる方々も多くいらっ

しゃいます。店内は所狭しと、

母ちゃんたちが作った野菜や

果物、産地間交流を行うJAの特産物、地元の母ちゃんたち

自慢の手作りスイーツやお惣菜もあり、品揃えの多さに驚きます。今の時期は山菜や、店の入り口では野菜や花の苗も売っています。もちろん、お米も売っていますが、雑穀日本一を誇る花巻の種類の豊富な雑穀も購入することが出来ます。種

(ひえ)で作った焼酎などの加工品も人気です。また、店内には新鮮な地元産の食材を使っ

た手作り料理が食べられる食堂「はんくはんく亭」、こんび

りベーカリー「ちやい」「こんびり」とは方言で小皿、軽食・

おやつの意味です)には添加物を極力抑えたパンやお菓子が

並び、すべにお腹を満たすこともできます。私は、特に「母ちゃん」たちの作る和菓子が大好きです。種類も豊富、同じ商品

でも作る方によっては味も形も微妙に違い、製造者のお名前も書いてあるのでとても安心

ですよ。買いたくなる商品満載

です。

花巻だより

高村光太郎没後60年 高村祭・高村山荘



花巻市太田に高村光太郎が住んでいた小屋・高村山荘があります。高村光太郎は、日本を代表する彫刻家・画家でもあり、「道程」や「智恵子抄」の詩集が著名な詩人でもあります。彫刻家・高村光雲の長男として東京に生まれた光太郎は、1945年(昭和20年)東京大空襲によりアトリエを焼失。同年5月、知人宮沢賢治の弟である清六を頼り、花巻の宮沢家に疎開しましたが、宮沢家も8月の空襲により焼失したため、同年秋から稗貫郡太田村山口(現、花巻市太田)に鉢山の飯場小屋を移築、雪が吹き込むような粗末な小屋で農耕自炊をし、晩年の7年を地域の人達と交流しながら過ごしました。山荘は光太郎を慕う村人達が木を持ち寄って立てた套屋(うわや・とうおく)、更にそれを保存する第二套屋で保存されています。高村山荘近くの詩碑の前で毎年5月15日(光太郎が疎開した日)に高村祭が開催されます。詩碑への献花、献茶や茶会などが催され、地元の小・中学生や高校生・看護学校生による合唱や演奏、詩の朗読などが行われます。また、命日4月2日には詩碑前で連翹忌(しぎょう忌)・生前レンギョウの花を好んだことから名付けられた)が行われています。今年は没後60年。高村祭をみると、高村光太郎という人物が、この地でいかに敬愛されていたかをうかがい知ることが出来ます。